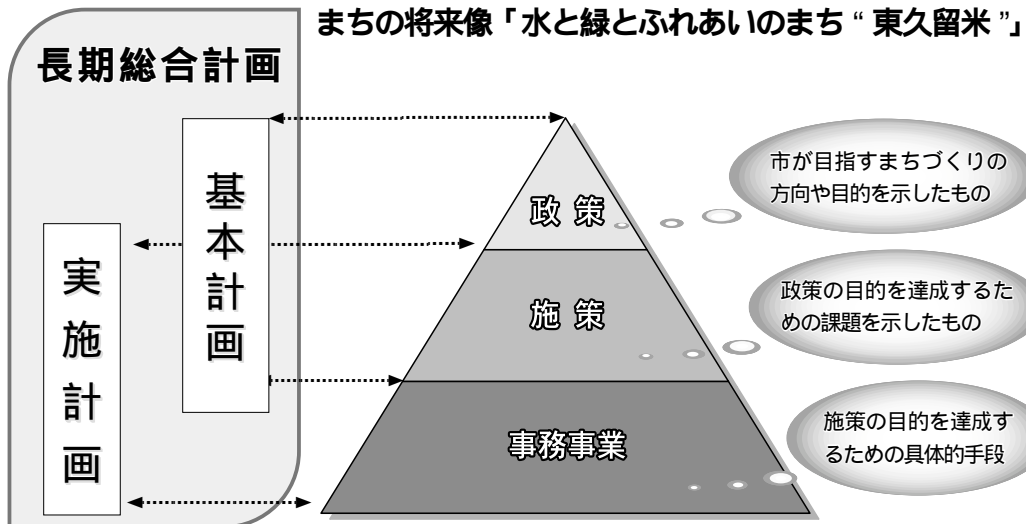


公表します 「施策評価」

市政構造改革 選ばれ続ける まちづくりのために

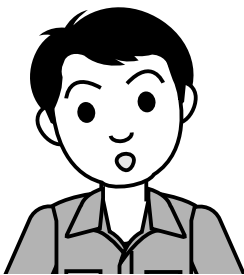


【評価段階の役割】

(1) 施策評価... 課長職が評価を担当するもので、設定した成果指標などを踏まえて行っています。この評価結果は、部長職によって行う施策の優先度付けに用いるほか、事務事業の施策に対する貢献度を振り返ります。

なお、先に、実施させていただきました「市政世論調査」は、施策の成果を図るため設定した成果指標の現状値を把握するという目的で実施したものです。調査結果は、各施策の成果指標に活用されています。

(2) 事務事業評価... 係長職・担当者が評価を行うもので、個々の事務事業の実施の目的等を説明するとともに、実施の成果を目的妥当性、効率性などの面から振り返り、より効果的で効率的な事業を行うための方策を導き出していきます。



施策評価の考え方

左の図は、市の長期総合計画「水と緑とふれあいのまち“東久留米”」を実現するためのシステムを説明したもので、市の行政評価は、この政策に基づいて、「施策」と「事務事業」の2段階で評価をしています。

今回の2年目を迎え、新たな施策評価表を用いて、よりわかり易く施策の評価結果を公表できるものになりました。

財政状況の破綻(たん)を回避するため、これまではコストや人員削減による減量経営を目指してきました。しかし、減少を続ける市税収入と行政サービスの質の維持「新たに生まれる行政の役割」など、変化する社会経済状況に対応し、かつ安定した行政サービスを提供し続けるためには、コストや人を減らすだけでは限界があります。そこで市は「行政評価制度」を取り入れて、市政構造を社会経済状況の変化に対応できる体質に改善を進めています。

この特集号では、15年度に行われた施策の評価結果と、その結果を踏まえた17年度に向けた施策の方向性について説明します。

ご意見・ご質問は電話70・7702、ファクス70・7804、企画調整課内電子メールで企画経営室行政財政等担当へ。

企画調整課メールアドレス
kikachousei@city.higashikurume.lg.jp

施策評価表(1枚目)とその説明

施策評価表(平成15年度実績評価と平成17年度方針)

作成日 平成 年 月 日

施策No.	この施策の成果を高める展開を中心となって立案する課です。	施策名	重点施策 <input type="checkbox"/> 重点施策以外 <input type="checkbox"/>
施策統括課名		施策統括課長名	各施策には、さまざまな事務事業があります。その事務事業を担当する課のうち、施策統括課以外が施策関連課となります。
施策関連課名			17年度に重点的に力を入れる施策か、それ以外の施策かのチェックを入れました。

1. 施策の目的と成果実績

施策の目的	対象指標名	単位	14年度実績	15年度実績
①対象	市民、事業所、市民活動団体など、施策の対象を設定しました。	指標化	左欄の対象を具体的に指標化して、その数値を記入しました。例えば、対象を市民とすれば、対象指標名は市民人口となります。	
②意図	対象をどのようにしていくのか、どのような状態に変えていきたいのかを具体的に記述しました。	指標化	施策の成果が上がっているかを判断するために設けました。把握できていないものは、今後継続的に把握していきます。	
成果指標設定の考え方	どのような考えで、意図に対する成果指標を設けたかを説明しました。			
成果指標の把握方法(算定式など)	成果指標の把握について、数値の根拠になる資料を説明しました。資料の多くは行政の各種アンケートや、他機関の統計データによるものです。昨年度から始めました市民アンケートは、ここで成果として用いられています。			
施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	施策によっては、行政だけではなく市民にも役割を担っていただかないと、成果の向上が望めないものがあります。この欄は、施策の成果向上のための行政と市民の役割について記述しました。			

施策評価表(1枚目)の続きは2面へ

施策評価表の視点

評価表は、単に施策のコストを下げ、近隣市や時系列、また市民からの期待と比べてどのくらいの状況にあるか

この評価をどうするか

評価結果を基に、17年度に

施策の見方

ここでは、実際に施策評価に用いた評価表を紹介してその見方を説明します(評価表の見方として1・2面の施策評価表を参照)

今後の取り組み

行政評価は、今後も継続して行います。これからも、市の行政運営等の状況を市民の皆さんにご理解いただけるよう努めていきます。

施策の見方

トを下げるための道具として用いるものではありません。施策の成果に着目して、より高い成果を得るための方策を次の6つの視点から考える道具です。

この評価をどうするか

施策に市の裁量の余地がどれだけあるのか
当該施策の環境は今後どのように変化するか
施策の成果が、近隣市や時系列、また市民からの期待と比べてどのくらいの状況にあるか

2面に続く